

山行報告書

山行管理部

※前月号1月13日付の土曜山行に関し、操作を誤り山名の「堂満岳」が漏れて
いました。改めて掲載します。大変失礼しました。

土曜山行 堂満岳 2024年1月13日(土)

CL:重岡・SL:網 参加者:13名(CL・SL含む)

8:50 比良駅-10:19 ノタリホリ 10:28-12:10 (昼食) 12:30-13:00 堂満岳 13:10-
14:06 金糞峠 14:09-15:42 イン谷口バス停 15:46-16:21 比良駅

朝、比良駅から眺める頂はうっすら雪が残り、時折頬に小雨があたる程度であり、登山道に入っても「アイゼンは不要だ」とみな笑うような始まりだった。歩き進めるうちに湿った雪は軽くなり、気づけば「雪山」らしくなってきた。アイゼンを装着し、硬めの雪を踏みながら、ふと振り向くと琵琶湖に指すオレンジ色の陽が美しい。昼食後、「シャクナゲ」が多くなってきたことに気づくとあっという間に暴風が吹く堂満岳頂へ。寒さに長居はできず下山することにしたが、ここからしばらくは頬も鼻も痛いほどのこの日最も強風の中を行くことになる。ひたすらラッセルしてきたCLと順に交代しながら、かすかに残る足跡、赤リボンを頼りに金糞峠まできたときには安堵感を感じた。そこからの青ガレを雪の少ない岩の上、アイゼンをカリカリ鳴らしながら「アイゼンワーク」を実習しつつみな怪我無く無事下山。イン谷口から比良駅への歩く中、強風で停まる可能性のあった湖西線がゆっくり走るのが見えた。タイミングよく乗車でき、冷えたからだも心も温められ帰路についた。

*山は楽しい。でも、共に歩くそれぞれの「目」が危険から守ることにつながる。みなが無事に下山できるからこそ山は楽しい。YAMAPは便利だが、自分たちの目で確認したルートを「本能」で進むことの大切さを学んだ山行だった。(網 記)

教育部 アイゼンワーク 六甲 芦屋 地獄谷 万物相 12月2日

【参加者】 4名 CL高桑、SL松本、出口、新熊

【コース記録】

JR 芦屋川駅前 08:30 — 高座の滝 09:00 — 地獄谷遡上 —
万物相 10:30 — 風吹岩 12:00 — 宝寿の水 — 横池 — 高座の滝 15:
00 — 芦屋川駅 15:30

【感想】

5月のコロナ禍対応の緩和以降から阪急芦屋川駅前の賑わいはそれ以前と同等かそれ以上の様に思います。やっとスタートラインに戻った気持ちです。又、駅前

でお元気そうなM田さんと偶然お会いする。

今回は、アイゼンワークだけでなくリクエストのツェルトの利用方法なども実技講習しました。

基本的にツェルトはテントの代用には不適であることが実技で実感出来たと思います。でも敢えてそうするならそれなりの備品と訓練も必要だと実感出来たと思います。その他の緊急時利用方法については、ツェルト

内に空間を出来るだけ大きく作り、“暖を取る＝冷やさない”ことに

知恵工夫の実技訓練が必要であることも参加者が共有出来たと思います。

(高桑 記)

公開山行 荒地山 2024年1月28日(日)

CL:稲田(京)SL 出口 足立 参加26名(内一般3名)

9:00 阪急芦屋川駅-9:40 城山登山口-10:00 城山-10:15 鷹尾山-11:50 荒地山(12:20 まで昼食) -なかみ山-13:00 風吹岩-13:20 本庄山-13:40 金鳥山-14:20 保久良神社-阪急 岡本駅

年明けはじめの公開山行。初登りの方も二度目の方も寒さでこわばった身体をほぐしながら、住宅街の舗装路を歩きはじめた。天気でややひんやりとしており、丁度よい気候だ。時々「コウヤボウキ」が散見された。鷹尾山を過ぎたあたりから岩がゴロゴロと現れる。本日の核心部 荒地山山頂までの岩場だ。名所の「岩梯子～新七右衛門峠のくぐり抜け」を避けて(大人数なのでザックの脱着に時間を要すと予想したため)右側のルートを選択。迂回ルートだが、三点支持確保の巨岩が続き、慎重に登る。一箇所だけ、担当者3人が懸念していた岩が現れる。今回は岩場の帝王、T氏や他、ベテラン先輩が勢ぞろい。皆で山初心者バックアップ。初心者の方も踏ん張り、全員が登りきることができた。CLの威勢のよい声が響き渡り、荒地山での昼食。そして水場(宝寿水)ルートを経て梅の咲き始めた保久良神社まで無事に下山。小雨が降ってきたのでクラブ紹介・募金活動等を終えて解散となった。その後、一般参加3名の方が入会されるという嬉しいお知らせとなった。

参加の皆様 色々のご協力ありがとうございました。(足立 記)

サロン 天王寺公園界隈の散策 2月3日 CL 佐内 SL 宇野 参加11名

JR天王寺駅10時集合、曇りがちでしたが風も無く散策日和でした。先ずは天王寺動物園へ、園内には子供たちのはしゃぐ声が響き、若さのおすそ分けをもらい童心に返って大いに楽しみました。記念撮影スポットのカバ像前は順番待ちの為、フラミンゴ舎前で記念撮影。昼食は串カツ、皆さん日頃は美容と健康のため避けている揚げ物も今日ばかりは解禁と大阪のソウルフードを堪能しました。

昼食解散後、有志で慶沢園～茶臼山～一心寺～四天王寺と早春の公園界隈の散策

を楽しみました。

(佐内 記)

自然保護部 探鳥会 宇治川・大吉山 2月4日(日)晴時々曇

CL井 SL目加田 参加8名

京阪宇治線・宇治駅～宇治川右岸堤防を下流に約1km往復～朝霧通り(昼食)～
さわらびの道(宇治上神社参道)～大吉山展望台～さわらびの道(鳥合わせ)
解散

源氏物語、宇治十帖の舞台となった地で、点在する碑なども楽しみながら、鳥を探した。

宇治川で多数のキンクロハジロ、ホシハジロ、オオバンに混じり、カワアイサを見つけた。他にカイツブリ、イカルチドリ、コサギなどを観察。堤防敷地ではモズ、ジョウビタキ、ホオジロを観察。大吉山遊歩道ではエナガ、メジロ、コゲラの混群に出会った。首が痛くなるまで頭上の混群を観察した。大吉山展望台には餌付けされたヤマガラが何羽も次々やって来て、訪れる人を楽しませてくれていた。身近で綺麗な野生の小鳥を堪能できたけど、野生のままの姿を見たいという気持ちもちよっとあった。

小学生が楽しそうに野鳥にエサをやり親しんでいる様子は微笑ましいが、エサが小鳥用に害がないか、過度のエサやりで警戒心が薄れ天敵に狙われるおそれや、特定種が増えて生態系バランスを崩すおそれも大変懸念されると思われる。希少ツル保護のエサやりは有用だが、例えば駅前のドバトへのエサやりでの糞害など、野鳥の居る場所の状況に応じたエサやりが望まれると思う。条例で自粛・禁止の所もあります。本探鳥会ではエサやりは行わないようにしています。

カモ科6、サギ科3、シジュウカラ科2、その他18、合計29種を観察。

(目加田・井 記)



ヤマガラ 同日、撮影 友田伸さん

土曜山行 蓬萊山 2月10日(土) CL塚・SL入山・滝川 参加10名
8:55JR 蓬萊駅→10:00 登山口→10:20 薬師の滝→12:10～12:35 昼食→小女郎峠
12:40 蓬萊山→14:25 打見山～ロープウェイで下山～15:30JR 志賀駅

土曜山行部では、2021年から毎年冬期に、薬師の滝からの蓬萊山登山を予定していました。しかしコロナや、登山道の悪路が予想されたり、ということで中止になり、今回は4度目の挑戦ということになります。最初のコース説明の時に、打見山からの下山は3時間弱かかるので、到着が14時を過ぎるとロープウェイでの下山になるかもしれない、打見山でもう一度決めるといって出発しました。登山口まで約50分、だらだらとした舗装道路と林道が続きます。登山口で水分補給や行動食などを食べるなどして、少し休憩しました。薬師の滝でまた少し写真タイム。そのあとはしばらく川を左に見ながら進みます。谷沿いの道を行くので、新緑の頃もいっただろうなあと思いました。少し広くなったところでアイゼンを装着し、足跡やリボンを頼りに何回か渡渉を繰り返しました。林の中に入ると急登が続きます。そして振り返ると、ところどころで琵琶湖が見えます。昼食場所は、稜線に出ると風が強いだらうからということで小女郎池まで下りる予定していました。しかしそこまで行って帰っての時間ロスを考えて、小女郎峠に出るまでのところで昼食にしました。でも稜線に出てもそれほど風も強くなく、時折青空ものぞくおだやかな天気でした。蓬萊山まで行くとそこはスキー場まったただ中。にぎやかな音楽の中を打見山までスキー客を横目に歩きました。打見山に14:25到着でしたので、ロープウェイで下山することになりました。今回はエスケープルートもあり、天気にも恵まれたので、のんびりと歩くことができました。でも冬の山は(いや夏山もですが)何が起こるかわからないというのは1月の堂満岳で体験済み。これからも一回一回、心して参加しなければと思いました。(塚記)

